

# 東白杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年1月 東白杵農林振興局  
(東白杵北部農業改良普及センター)

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
  - 1 子牛セリ市が開催
  
- II 主な普及指導活動等の取組
  - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 2～5)
    - [総合プロジェクト関係]
    - [専門プロジェクト関係]
  
    - 1 【総合1】新規就農者等に対する個別支援
    - 2 【総合1】認定農業者フォローアップ
    - 3 【総合1】お試し就農（農作業体験会）～きゅうり
    - 4 【総合1】農業用機械オペレーター養成研修会
    - 5 【総合1】果樹経営承継研修会を実施
    - 6 【専門1】畜産研修会を開催
    - 7 【専門2】茶園審査会を実施
    - 8 【専門3】たまねぎ試験品種の収穫物調査、検討会を実施
  
  - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 5)
    - 1 温州みかん出荷検討会で栽培暦等の説明を実施
    - 2 シキミ視察対応を実施

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 子牛セリ市が開催

19日、延岡家畜市場において、1月期の子牛セリ市が開催されました。

平均価格(速報)は、雌701千円(229頭)、去勢809千円(220頭)で、全平均では、754千円となり、前回(11月)比、約46千円高での取引となりました。

セリ市では河野知事も来場され、生産者と意見交換を行った後、セリ開始前に生産者と購買者に対して挨拶され、宮崎牛の消費拡大支援やイスラム圏への輸出状況についての説明がありました。

また、セリ前研修会では、延岡家畜保健衛生所から飼養衛生管理基準についての情報提供がありました。



1月期子牛セリ市

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

[総合プロジェクト関係]

[専門プロジェクト関係]

#### 1 【総合1】新規就農者等に対する個別支援

15日、新規就農者及び就農予定者2名の個別支援を以下のとおり実施しました。

##### ①令和7年就農者(品目:施設野菜)

作物の生育状況を確認し、防寒対策や収量向上に向けた助言を行いました。また、青年等就農計画の作成に向け、現在の作付面積や販路の確保状況等について聞き取りを行い、今後のスケジュール管理や収支計画の作成方法等について支援しました。

##### ②令和8年就農予定者(品目:施設野菜)

市内の先進農家で研修中の就農予定者の状況確認を行いました。作業の従事状況を確認するとともに、青年等就農計画の作成に向け、認定新規就農者制度の説明や収支計画の作成方法等について助言を行いました。

今後も、関係機関と連携して新規就農者等の支援に取り組み、就農者の確保及び定着を図ります。

#### 2 【総合1】認定農業者フォローアップ

7日、農業経営改善計画5年目の認定農業者(複合経営・1戸)に対し、関係機関とともに計画の更新に向けたフォローアップを当該認定農業者の自宅にて行いました。

フォローアップにおいては、水稻及び園芸経営に関する現在の経営状況を聞き取った上で、機械化による省力化等に関する助言を行いました。その結果、現状に対する認識が深まり、経営改善に向けた課題整理に繋がったものと考えています。

今後、今回のフォローアップをもとに作成された計画が認定されることで、次の5か年も認定農業者となることができますが、普及センターでは農業者の経営改善に向け、自ら計画を作成できるように支援を行っていきます。

### 3 【総合1】お試し就農（農作業体験会）～きゅうり

27日、延岡市農業労働力確保対策協議会主催による雇用促進を目的としたお試し就農（農作業体験会）が、きゅうり生産者の協力の下行われ、10名の参加がありました。

生産者からきゅうりの植え付けから収穫までの流れ、仕立て方の説明があり、その後ビニルハウス内で収穫とつる下ろしの実演をしながら、参加者それぞれが農作業を体験しました。

農作業体験後、雇用希望があった4名に対して、生産者から具体的な雇用時間や1日の雇用人数等の説明がありました。参加した生産者からは、「これまでハローワーク等で募集を行っていたが、協議会の協力により、10名も集まって非常にありがたい。実際に農作業体験を行って募集する方法は非常に効果的だ」といった声が聞かれました。

今後、採用に向けてシフト表の作成等を行う予定であり、雇用人材の確保に繋がる研修会となりました。



つる下ろし作業の様子

### 4 【総合1】農業用機械オペレーター養成研修会

29日、30日に、沖田地区水田ほ場において、延岡市農業労働力確保対策協議会の主催による農業用機械のオペレーター養成研修会が開催されました。本研修会は、規模拡大指向の水田農業経営体間で連携して雇用できるオペレーター確保を目的に令和3年度から行っているものです。

今回の研修では、延岡地域稲作研究会会員の生産者4名及び(株)ISEKI JAPANの協力の下、6名の受講者に対するトラクターでの耕耘作業の実技指導が行われました。

受講者は2日間にかけて3社の大型トラクターを操縦しました。丁寧な実技指導により、ほ場内での直進、転回作業等の基本的な操作がある程度できるようになったと思われます。

実技研修終了後に行った受講者へのアンケートでは3名がオペレーターとしての雇用希望があり、研修終了後に受講者と生産者との間で雇用形態等の具体的なやりとりが行われました。また、事務局から生産者及び雇用希望の受講者に連絡先等の情報提供が行われており、雇用人材の確保が期待される研修会となりました。



耕耘作業の実習

## 5 【総合1】 果樹経営承継研修会を実施

29日、J Aみやざき延岡地区本部北方支店にて、延岡市果樹振興協議会の生産者13名（後継者含む）、関係者7名が参加し、果樹経営承継研修会（主催：延岡市果樹振興協議会）が実施されました。

今回は宮崎県農業振興公社から講師を招き、県内の経営承継事例や新規就農者確保に向けた産地での取組事例についての講習を行いました。講師からは、延岡地域では後継者がいない経営体が多いことから、地域の関係者や経営体が連携して、新規就農者を確保する取組が必要であることを提案されました。普及センターからは、①事業承継に必要な手続き、②経営承継支援ノートとその記入例について説明を行いました。

経営承継については、各経営体での考え方が様々であり、研修会後の生産者アンケートにおいて理解が不十分であった回答も見られたことから、引き続き今回のような研修の場を設けて、経営継承に向けた対策を促進したいと考えています。



研修会での資料説明

## 6 【専門1】 畜産研修会を開催

23日、延岡家畜市場において、肉用牛繁殖農家を対象にした畜産研修会（県とNOSAI宮崎の共催）を開催しました。今回の研修会は、東臼杵北部地域と南部地域の肉用牛生産者を対象とした研修会であり、約50名の生産者や関係機関が参加しました。

研修会テーマを「牛管理の無理と無駄を省く」として、普及センターから未熟堆肥施用は経営コストが増加する内容について、また、NOSAI獣医師からは、獣医師から見た敷料のポイントについての研修を行いました。

質疑応答において、生産者から牛糞を堆肥化するまでの期間や堆肥の成分分析方法に関する質問が出るなど、研修内容を積極的に経営に取り入れようとする姿勢が見られました。一方、おが粉が入手しにくい、価格が高いといった、不安の声も聞かれました。

今後も、関係機関と連携し、畜産農家の経営強化に繋がる支援を実施していきます。



畜産研修会

## 7 【専門2】 茶園審査会を実施

22～23日にかけて、延岡茶生産組合主催による茶園審査会が開催され、14カ所の茶園を審査しました。審査会は茶園管理技術の向上を目的として毎年開催しており、県総合農業試験場専技センターの革新支援専門員を審査員長として、J A、市役所、振興局、普及センターなどの関係機関で審査を行っています。審査では、葉層や病虫害の発生程度などの地上部の生育状況に加え、根の張りや土壌の硬さなど地下部の生育状況についても細かく評価しており、茶園審査後には生産者毎に診断書を作成して、フィードバックを行っています。

今年度の審査においては、昨年度から改善が図られた茶園も見られるなど、生産者の茶園管理意識の向上に繋がっています。普及センターとしては、茶園審査結果をもとに生産者に茶園の状態を確認し、改善点を提案することで、更なる栽培技術向上を図っていきます。



茶園審査

## 8 【専門3】たまねぎ試験品種の収穫物調査、検討会を実施

21日、JA塩浜選果場にて、普及センターと関係者1名の計2名にて、たまねぎ試験品種の収穫物調査を実施しました。

慣行品種では早期出荷が不安定であったことから、早期出荷対策のために、新品種を試験栽培（生産者4戸に依頼）してきましたが、今回、収穫したたまねぎの外観や食味などの品質を詳しく調査しました。

収穫物調査を基に試験品種の生育や収穫物調査データ等による地域適性有望性に関する検討会（28日）を行った結果、試験品種は品質的にも問題なく、また試験品種の収穫日は1月20日で慣行品種より早い状況であったことから、今後も引き続き検討していくこととしました。

試験品種は慣行品種とは施肥等の管理が異なりますが、早期出荷できることから生産者の期待が高く、普及センターとしてもたまねぎ生産の安定化を目指して、引き続き検討を実施していきます。



試験品種の写真

## 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

### 1 温州みかん出荷検討会で栽培暦等の説明を実施

8日、JAみやざき延岡地区本部北方支店にて、生産者7名、市場関係者1名、関係者2名が参加し、温州みかん出荷検討会が実施されました。

検討会では、市場関係者から市場での温州みかんの出荷状況や年末の果実の販売状況等について情報提供が行われ、参加者で共有しました。また、市場では早生温州みかんの出荷が続いていることから、普通温州みかんに切り替わる時期が平年に比べて遅れる見込みである説明があり、生産者が出荷タイミングを検討する材料になりました。その他、JAからは出荷要領について、普及センターからは令和7年の気象状況や温州みかんの生育状況、栽培暦の見直し案について説明を行いました。

温州みかんのJAへの出荷は1月16日から始まり、3月まで続く見込みです。



出荷検討会での協議

### 2 シキミ視察対応を実施

27日、北川町の現地にて、シキミ生産者2名、関係者5名が参加し、日向地区営振協花き部会7名の視察研修に対応しました。

シキミの立枯れ症について、日向地区での発生状況や鹿児島県の事例等を説明いただいた後、北川町の生産者から立枯れ症対策の取組状況等を伺い、意見交換が行われました。日向地区では早生系統、北川町では晩生系統で発生が多い傾向がみられ、地域で発生状況に違いがあることが分かりました。生産者からは、これまでの普及センターの調査結果を元に施肥等を改善した結果、立枯れ症は減ってきたという意見もありましたが、今でも原因が分からず枯れるものはあるとのことでした。

立枯れ症の原因は複合的で十分解明されていないので、今後も東臼杵南部普及センターと情報共有しながら、対策の整理に取り組みたいと考えています。



現地での意見交換